

さぼちが創立20周年記念事業 こどもファンド準備の進捗

認定NPO法人NPOサポートちがさき 第3回全体会

2022年 3月 26日 (土)

ちがさき・さむかわこどもファンド 事務局

最後に ちがさきの「こどもファンド」立ち上げに

一緒に汗をかいてくださる方、
募集しています。

ご協力をよろしくお願いします。

<m()m>

1. こどもファンド準備会メンバーについて

「こんなまちにしたい」子どもたちの思いや夢をかなえるために、子どもによるまちづくりの活動を応援する仕組みの立上げ準備を行うメンバー

2022年3月25日現在

新規加入メンバー 5名 *は非会員

船越英一さん、久保田貞子さん、羽角章さん、
柴田凜太郎さん*、岡島俊信さん

従来メンバー 5名

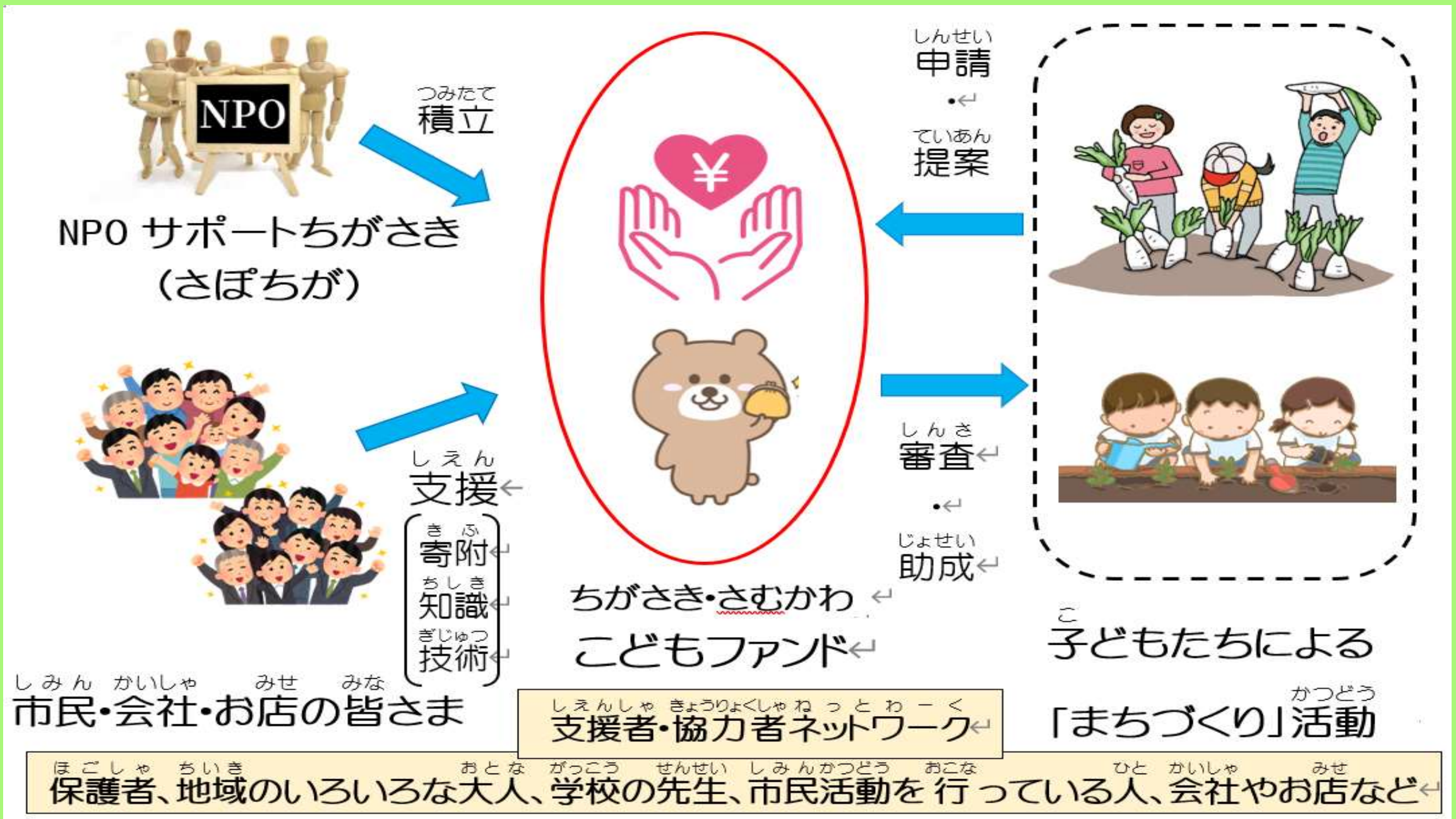
益永律子さん、久保田邦邇さん、佐野初美さん、
北川哲也さん、永島雅美

2.1 こどもファンドとは

「こんなまちにしたい」「こうしたら、もっとよくなる」
まわりの人たちや未来の人たちが幸せに暮らすことができるよう、
どきどき、わくわくして子どもたちが考え、自分たちでやってみる。
そんなチャレンジする「子どもたちが考える子どもたちの活動」を
応援する仕組み。

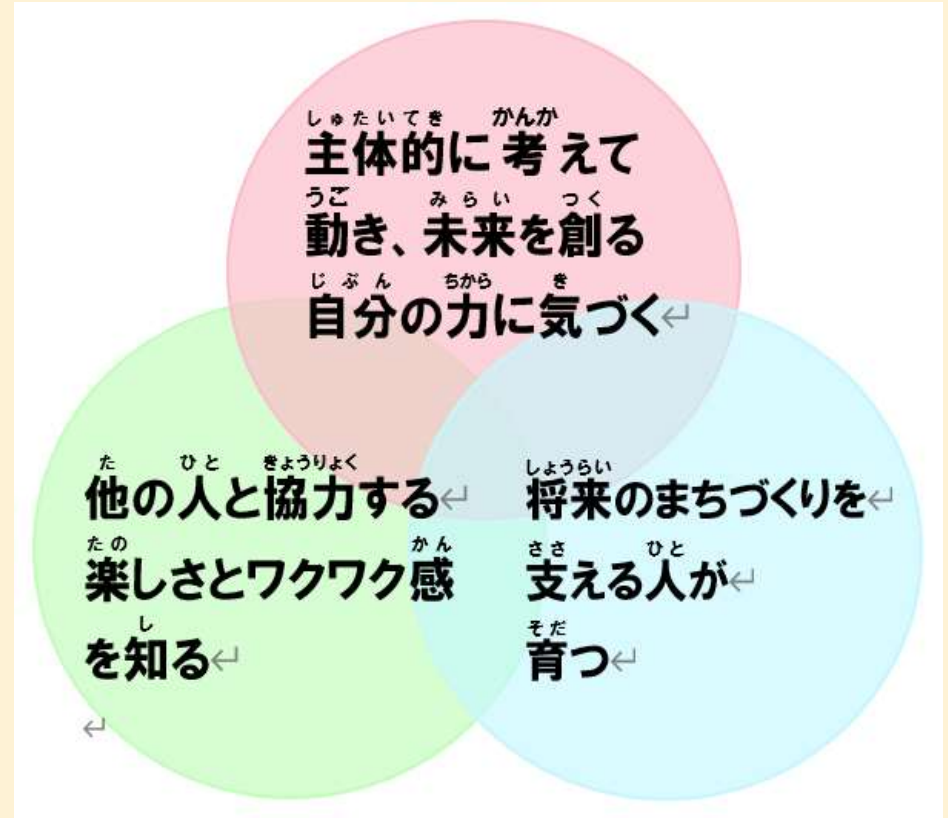
「さぽちが」は、このような夢に向かって活動する子どもたちを応援
するために、お金を積み立ててきた。そして、このお金に市民や会社、
お店の皆さんからの寄付を足し、子どもたちの活動を支える仕組み。
この仕組みが「ちがさき・さむかわこどもファンド」。

2.2 「ちがさき・さむかわ こどもファンド」のイメージ図



3. こどもファンドがめざすもの

- (1) 子どもたちが主体的に考えて動き、未来を創る自分のチカラに気づく
- (2) 他の人と協力する楽しさとワクワク感を知る
- (3) 将来のまちづくりを支える人が育つ



4.1 こどもファンド準備会議の進捗

定例会議(10/10,10/25,11/30)

第1回～第3回

こどもファンドの小中学生への周知・告知策の検討

茅ヶ崎市関係部署への説明

大人審査員の条件及び候補検討

協力者の開拓

想定Q&Aの整備

4.2 こどもファンド準備会議の進捗

定例会(12/15,12/25,1/07,1/10)

第4回～第7回

大人審査員候補の確認

アドバイザー、サポーターの性格付け

告知チラシの検討

募集要項の検討

4.3 こどもファンド準備会議の進捗

定例会(1/22,2/05,2/20,3/05,3/16)

第8回～第12回

大人審査員・アドバイザー・サポーターの決定

他市(高知市、名取市)こどもファンドとの交流

寒川町役場へのこどもファンド説明

初年度日程の確定

告知チラシ・募集要項の作成

こどもファンドの愛称・ロゴマーク募集要項作成

4.4 こどもファンド

募集要項



2022 未来のまちへチャレンジ!
ちがさき・さむかわ
こどもファンド

おうぼ
応募のしおり

認定特定非営利活動法人 NPOサポートちがさき
(茅ヶ崎市民活動サポートセンター指定管理者)

2022年 3月 16日 初版

告知チラシ



2022 ちがさき・さむかわ
こどもファンド
参加者募集

子どもたちのわくわく、
ときどきのチャレンジを応援!

活動募集
応募内容はウラを見てね

「こんなまちにしたい」
「こうしたら、もっとよくなる」
子どもたちが考えて、
自分たちでやってみたい
アイデアを待っています!

ちがさき・さむかわに住んでいる、
学校などに通っている
小学3年生～18歳までの人

締切 6/18

**こども審査員
同時募集**
小学3年生～18歳まで (9名)

7/2(土) こども審査員説明会に
参加して審査のやり方を決めます

こどもファンド説明会
5/8(日) 5/14(土)

**こどもファンド
公開審査会**
7/16(土) 公開審査会で
どんなことを、いくらでやりたいか
活動をプレゼンします。

こども審査員が
プレゼンの内容を審査します

**こどもファンド
活動 7月～2月**

活動発表会
3/11(土)
活動を子どもたちがプレゼンします。

**ちがさき・さむかわ
こどもファンドってなに?**

みなさんは、茅ヶ崎市や栗川町が好きですか?
「NPOサポートちがさき」は、周りの人たちが未来の
人たちが幸せに暮らすことができるよう、ときどき、
わくわくしてチャレンジする「子どもたちが考える
子どもたちの活動」を応援したいと思っています。
私たちは、その夢に向かって活動する子どもたちの
ために、長い期間お金を積み立ててきました。
そして、このお金に市民や会社、お店のみなさんか
らの寄付を渡し、子どもたちの活動を支える「ちが
さき・さむかわこどもファンド」という名前のしく
み考えました。

くわしいことは
ウラを見てね!

こどもファンドが めざすもの

- 子どもたちが主体的に考えて動き未来を創る
自分の子カフに気づく
- 他の人と協力する楽しさとワクワク感を知る
- 将来のまちづくりを支える人が育たつ

連絡先:認定NPO法人NPOサポートちがさき(茅ヶ崎市民活動サポートセンター指定管理者)

活動募集 Q&A

Q. 誰が応募できるの?
A. ①～③を満たす人です。
①小学3年生～18歳までのメンバ
ーが3人以上いること
②このメンバーがひとつの家族(兄弟
姉妹)だけでないこと
③サポートしてくれる20歳以上の大人
が2人以上いること

Q. どんな活動が対象されるの?
A. 住んでいる地域やまちをもっと、楽しく
暮らしやすいところにする活動です。
活動事例
①公園をきれいにしたい
②特産品を使った料理のクイズを作り
介護施設でおもてなしをしたい
③「笑顔」の写真を壁に展示したい

Q. 公開審査会ってどんなもの?
A. みんなの前で、アイデアを発表・
提案してもらいます。
こども審査員がチェックします。
A. 質問が出たら回答してください。
審査員のアイデアを認めてもら
えるかどうか、ここが勝負ポイント!

Q. 助成金はいくらもらえるの?
A. 一つの事業(活動)に対して出るお
金は5万円までです。
・助成金を利用できるのは
事業に必要な材料費・文房具代・
印刷費・講師の人へのお礼金
・パソコンなどの備品はできません。

こどもファンドをどうしてはじめるの?

NPOサポートちがさきは2002年から、20年かかると茅ヶ崎市民活動サポートセンターの管理運
営の中、2007年から茅ヶ崎市民活動協議会と協賛した4年生から大学生くらいまでみなさんが、
夏休みに行うボランティア活動の仲介してきました。これまでに2000人を迎え子どもたちの
成長の一助かり、その成果が評価して地産に価値する誇りの高まりにしました。
私たちはその経験から、周りの人たちが未来の人たちが幸せに暮らすことができるよう子どもた
ちの「こんなふうにしたい」「こうなったらいいな」という思いに、ときどき、わくわくして
チャレンジする「子どもたちが考える子どもたちの活動」を応援することが私たちの理想とする
未来を創る一つの方法だと確信し、茅ヶ崎市と栗川町の「こどもファンド」のような子どもたちの
活動を支える仕組みを創りたいと考え「ちがさき・さむかわこどもファンド」をつくりたいと考
えました。応援してくださる方の力を借りて、実現ですが始めることにしました。

大人のみならず
地域の魅力発見、まちの未来を創るこども
たちの活動と一緒に応援してください!

応募書類の入手先
・茅ヶ崎市民活動サポートセンター
・茅ヶ崎市民活動サポートセンター-LCEI
・茅ヶ崎市民活動サポートセンター-LCEI
・茅ヶ崎市民活動サポートセンター-LCEI

事務局 問い合わせ

認定特定非営利活動法人
NPOサポートちがさき 担当:佐野
茅ヶ崎市民活動サポートセンター-LCEI
茅ヶ崎市民活動サポートセンター-LCEI
電話:090-6255-7540
メール:sapochiga70@gmail.com

ウェブページからダウンロード
NPOサポートちがさき公式サイト
http://sapochiga-mirai.com/
随時アップしていきますので、最新チェックを

掲載内容は変更する場合があります。2022年3月16日現在

5. こどもファンド 大人審査員 (5人)

年代、性別、参加しやすさ(居住地)などを考えて選定

審査委員長の卯月盛夫先生(早大教授)を除き4人(男性1人、女性3人)

20代	30代	40代	50代	60代
—	—	山口順平さん	—	—
田中藍奈さん	—	池田美砂子さん	—	吉野由美子さん

田中藍奈さん：PlantPitty代表、BENIRINGO共同代表、山口順平さん：らしくる代表、湘南100CLUBリーダー、池田美砂子さん：フリーランスライター・エディター、Cの辺り主宰、吉野由美子さん：寺子屋ハウス(学習ボランティア)

6. こどもファンド アドバイザー

こども審査員の事前説明会や審査基準作成の際、子どもたちの活発な議論を引き出す役目

子どもの主体性を大切に、かつ、フレンドリーにファシリテーションできるか考えて選定

阿部汐里氏(BENIRINGO共同代表)

1. こどもファンド 初年度 年間スケジュール

(1) 募集開始 4月15日(金)

※助成事業(活動)及び子ども審査員公募

(2) 説明会 5月8日(日)、5月14日(土)

(3) 受付締切 6月19日(日)

(4) 子ども審査員事前説明会 7月2日(土)

(5) 公開審査会 7月16日(土) 茅ヶ崎市民文化会館

(6) 子どもたちによる活動 7月~2月28日(火)

(7) 活動発表会 3月11日(土) 茅ヶ崎市民文化会館

**なぜ、「さぽちが」が
「こどもファンド」を立ち上げるの？**

～ 今回は、定款や理念の視点から ～

NPOサポートちがさき 定款（目的） 第3条

この法人は、民間支援組織として、営利を目的としない社会に貢献する活動を行っている個人や団体に対して、その活動の促進や支援等を行い、市民の自主的な活動による豊かな市民社会の発展に寄与することを目的とする。

NPOサポートちがさきの理念

ビジョン

このまちを愛し、よくしていこうとする人たちが、もっと元気になって一人ひとりがつながり支えあって、幸せな社会に変えていくことが私たちの願いです。

ミッション

市民の思いや願いをカタチにして、新しい価値を生み出すために、未来を拓く人や組織が輝きを増すために、意欲あるNPOが公共の担い手となるために、NPOへの信頼と共感の輪を広げていきます。

「ちがさき・さむかわ」の
子ども達（団体）の
主体的な活動
||
市民の自主的な活動

NPOサポートちがさき 基本方針(2021年度～2025年度)

基本理念

「利用者視点にたったサービスの向上」

「思いをカタチにする市民への伴走力の向上」

1. 活動を始めたい人のきっかけづくりを支援する。
2. タテ・ヨコ・ナナメにつなぐ情報・協働拠点としての機能を充実させる

情報発信の強化

何か始めたい人が知りたい情報、活動に役立つ旬な情報、NPOの信頼度を高める情報など、有効・最適な伝達ツールを用いて発信する。

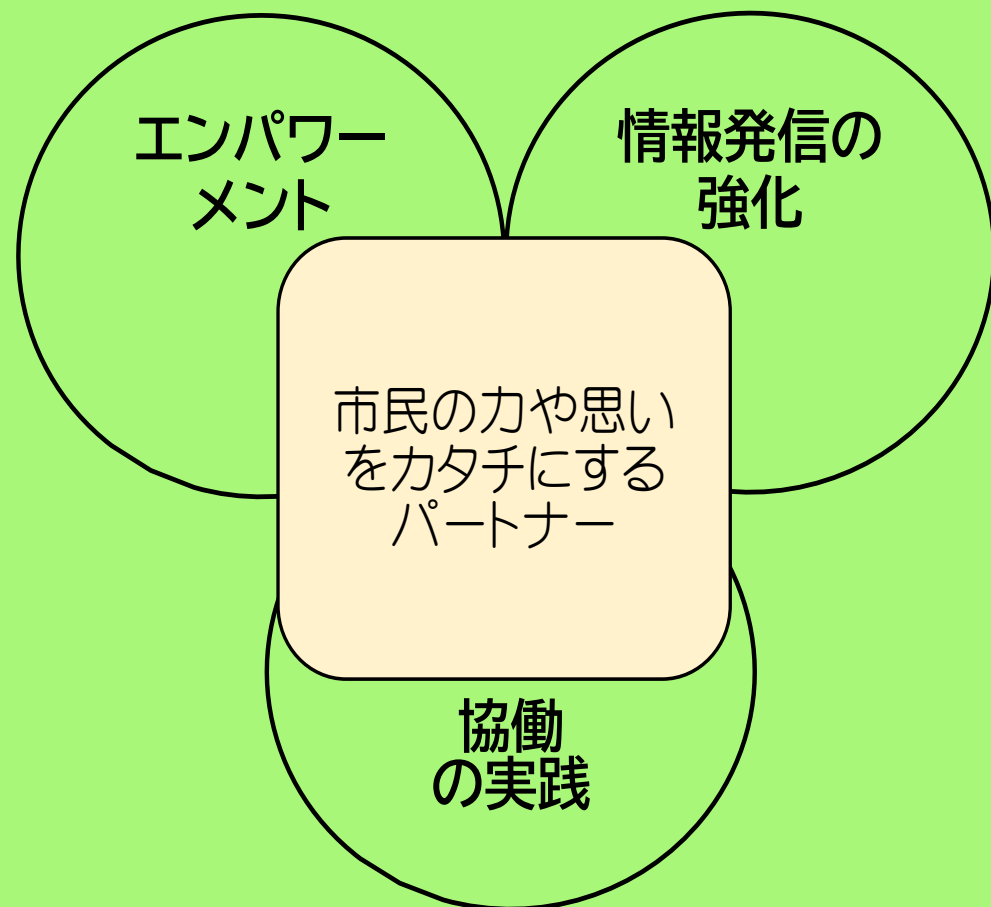
エンパワーメント

個人やNPOの内なる活力や可能性を引き出し、地域や社会のために頑張れる人を発掘して応援していく。

協働の実践

多様な主体とのネットワークを強化し、必要に応じて外部委託やワークシェアに取り組む。

ちがさき・さむかわの子ども達
||
市 民



こどもファンドをどうしてはじめるの？

「NPOサポートちがさき」は、2002年から20年にわたる茅ヶ崎市民活動サポートセンターの管理・運営の中、2003年から茅ヶ崎市社会福祉協議会と始めた中学生から大学生くらいまでの若い皆さんが夏休みに行くボランティア体験のお手伝いにおいて、これまで2,000人を超える子どもたちの成長の一端に関わり、その成果が伝播して地域に循環する姿を目の当たりにしてきました。

私たちはその経験から、まわりの人たちや未来の人たちが幸せに暮らすことができるよう子どもたちの「こんなふうにしたい」「こうなったらいいな」という思いに、どきどき、わくわくしてチャレンジする「子どもたちが考える子どもたちの活動」を応援することが私たちの理想とする未来を創る一つの方法だと確信し、高知市と名取市の「こどもファンド」のような、子どもたちの活動を支える仕組みをつくりたいと考え、応援してくださる方の力を借りて、手探りですが始めることにしました。

こどもファンドの原点、独「ミニ・ミュンヘン」

「こどもファンド」の準備を始めるにあたり、この分野の第一人者早稲田大学卯月盛夫教授を訪問。その際、お聞きした独・ミュンヘンで1979年国際児童年を記念し始まった大イベント「ミニ・ミュンヘン」。7～15歳までの子どもだけで運営する「小さな都市」。2年に一度夏休み期間の3週間だけ疑似都市が出現し、子ども達自身がやるべきことを考え、意思決定しまちを運営していく。

そして終わった後には、子ども達が現実の社会や都市の在り方について関心を持ち、どうあるべきなのか自ら考えるという。体験を通し、子ども達は「自分にはやれることがある」「社会のために価値のある貢献ができる」という自覚を持つていくという。

「こどもファンド」もそのような仕組みにしていきたい。（事務局）

会員の皆さま
「こどもファンド」を
ご一緒に♥
よろしくお願ひします。

(..)_

参考

ミニ・ミュンヘン 2020

<https://vimeo.com/544554240>

Eindrücke aus Mini-München findet STADT

ミニ・ミュンヘンが子どもに期待しているのは「ファンタジー (Fantasie) を持つこと」そして「ファンタジーを実現すること」。**ファンタジーとは、空想、夢あるいは希望**を意味し、子どもが最も得意とする領域である。現実ではないけれど頭の中に、全く新しい世界を描こうというメッセージである。しかしそれだけではなく、ミニ・ミュンヘンはその**ファンタジーを実現するべく具体的に行動すること**をさらに伝えようとしている。個々のブースで困難なことや、他の人を説得しなければいけないことは多くても、その努力をしようというメッセージである。子どもがまず独自のアイデアや夢を持ち、そしてそれを実現するという小さな小さな積み重ねこそが、**子どもの生きる力を育む**のである。

もうひとつは「**ゼルフシュテンディツヒカイト**(Selbständigkeit)」である。ミニ・ミュンヘンに子どもを連れて来た両親が最も子どもに期待していることが、実はこの「**自立心**」「**自主性**」であった。自らの考えを持ち、自ら行動するということである。

ミニ・ミュンヘンにいる**子ども市民**は、実際の大人市民よりも**自治意識が強く、また自治の責任も果たし、自らの都市や社会を真剣に見つめている**。しかもその**子ども市民は実に楽しそうで、幸せそうである**。ミニ・ミュンヘンの中には、子どもだからこそ実現できる「まちづくりの民主性、純粹性、幸福感」が存在している。私たちは**まちづくりの現場にもっと子どもの参画を進め、子どもにもきちんと説明できる民主性、子どもから得られる純粹性、子どもとともに分かち合える幸福感をもっと持ち込みたい**。

(ミニ・ミュンヘン研究会 <http://www.mi-mue.com/activity/report.html>より)

参考

Mini-München

<https://www.mini-muenchen.info/>

ミニ・ミュンヘンの街では、7歳から15歳までの子供や若者が働き、勉強し、お金を稼ぎ、消費し、建設し、友人に会い、政治などを行うことができます。

40年以上にわたり、ミニ・ミュンヘンはミュンヘン市で最大のホリデープログラムであり、ドイツの子供たちのための最も有名な文化教育プロジェクトの1つであり、国内外の300以上の遊びの都市のロールモデルとなっています。

※次回のミニ・ミュンヘンは、2022年8月1日から19日まで開催されます。